

大切なのは人の和

盆踊り大会がやってきます。

コツ通り商店会（旧興隆会）主催の盆踊り大会は39年続いていきます。東日本大震災発生の一周年です。東日本大震災発生の一周年、よく続けられたと驚くばかりです。

この盆踊り大会は、昭和23年第二瑞光小学校の校庭での開催が始まりました。その後は五丁目の若林区議宅前で行われました。区議宅の隣りにあった常盤稲荷神社の常盤講主催だったからです。昭和50年（1975）から商店街の賑わいのためにコツ通り（都道路）で開催されるようになり、子どもから大人まで楽しい思い出つくりがされて来ました。

盆踊り大会が続けて来られたのは、大勢の方々の力や協賛金を出して下さった方々のご協力のおかげです。また、それ以上に荒川区・南千住警察署・荒川消防署（南千住出張所）



・中央町会・瑞光町会・天王さまの祭の団体（瑞光・上町・志茂）各PTA関係団体等の多くの方々の協力で Rowe れております。

一ヶ月前より会合を重ねて盆踊り大会の準備をしてきました。今年の盆踊り大会では子ども達に人気のあるスイカ割大会を土日曜日の二日間で行います。一日100人が参加できます。

人と人の和を大切に、これから楽しい思い出をたくさん持つて頂けたらと思います。明るく生きられます。さあ、太鼓のリズム乗って踊りましょう。全ての皆さまに心から感謝申し上げます。

仙成こと杉山六郎

吉田喜一 教授の ものづくり



今年のロボコンは輪投げ…『輪花繚乱』

都立 産業技術高専名誉教授 吉田喜一

今年にはロボットによる「輪投げ合戦」です。

ロボットは太さや高さの異なる様々なボールに輪を投げ入れます。輪の大きさは各チームが自由に決めることができます。先に九本全てのボールに輪を投げ入れたチーム、もしくは競技時間三分終了後、ボールに輪を投げ入れて得た得点の多いチームが勝利となります。どんな大きさの輪にするのか、それをどうすれば正確にボールへ投げられるのか。見ている人が驚くような独創的なアイデアや、確かな技術力で輪投げに挑戦します。敵味方の輪が飛び交い、フィールドに散らばる環境の中でも、正確に輪を投げ入れることができる「タフな」ロボットを目指します。

いろいろな花が咲き乱れる様子を指す「百花繚乱」という言葉は、秀でた人が一時期にたくさん現れる場合にも使われます。フィールドに赤や青の輪を咲かせられるユニークなロボットが数多く登場することでしょう。

「ヒートアイランド」抑制に官・民の努力を



メガネの 祐一郎君の アドバイス 消費生活 アドバイザー 佐藤祐一郎

今年の夏は、東京で8日連続の猛暑日を記録するなど、近年でもひとときわ酷暑に悩まされました。気圧配置など、気象条件もその要因ではありますが、東京においては「コンクリートジャングル」+「人工排熱」+「海風をさえぎる高層建築物の乱立」も見逃せない要因だと思います。「ヒートアイランド」と言われて久しい東京で、果たして、5年後の夏にオリンピックが安全に行えるのか、私も疑問に感じています。

今すぐにもできることとして、23区内の空き家、空き地、遊休地などのコンクリートを剥がし、土の地面、できれば芝生の広場や、市民農園にすることを提案したいと思います。土地は10年程度の定期借地とし、その間は行政が借り受けて管理します。地権者に対しては、空き家撤去や、整地の費用を全面的に行政が負担し、固定資産税を大幅に減免（例えば、農地以下の課税に抑える）することで、負担を生じさせないようにします。地権者は土地を手放すことなく、確実な地代収入が得られます。土の地面が出現することで、気温上昇の抑制だけでなく、急な降雨時の下水道負荷を抑えたり、首都直下地震の際の延焼緩衝地や一時避難用地になったり、空き家が無くなることで防犯・美観上の課題が解消されたり、周辺住民のコミュニケーションの場になったり、新鮮な農産物を採って食べる楽しみがきたりと、行政・区民の側にも様々なメリットが得られます。私権を一部制限し、半強制的に行うくらいの大胆な法・条例整備が必要な時期に来ていると思います。